

鶴田晴彦 **カリカチュア** 寄紙細工展

ネウルの大冒険

2015. 1/15(thu) ~ 20(tue)



これまでのお話

メグウ・ア・ネウル動く店

地上界は 明日の見通しもきかない暗黒の時代にはいる。
 主人公は、気弱な店主 メグウ・ア・ネウル。
 ある日 怪しげな客 シャウロの大口の依頼を受け
 試練の旅に出ることになる。特別な〇〇をつくる資格を得るため、
 たまたま居合わせた 老魔女ジジイとともに「鬼の島」に赴くのだ。
 二人は 危険きわまりない道を進むのだが、
 その間 賢人たちの助言を受けたり、
 謎の大地下帝国の 奇妙な連中らにからまれたりしてしまう。
 目指すは、未知の魔力・"鬼力(フォース)"を使いこなす
 マスター・ヨーナ・ウーシーノの資格取得試験 合格。

今回のお話

ネウルの大冒険

舞台は 地上の者達の繁栄が極まった フモル国 第三紀後期。
 シャウロの依頼でつくった〇〇は、
 地上の四種族の王を 自在に操るためのものだった。
 地上の覇権を一手に握り、大儲けをおさめようとするシャウロ。
 しかし、さらにその影には 地底の冥王の邪悪な考えがあった。
 冥王は地上・地底界を統一し、天界転覆を企てていた。
 ネウルは自分がしたことの重大さに責任を感じ、
 〇〇奪還と震天動地の騒動をおさめるため、
 地底・天上へと奔走する。
 ネウルに 世界の危機は 救えるのか？



鶴田 晴彦

TSURUTA HARUHIKO



日本におけるカリカチュア(戯画-滑稽と風刺を主とする。)の原点としては、正倉院の古文学「大大論」の裏落書き、法隆寺の天井裏落書きや、「鳥獣人物戯画」(鳥羽僧正 筆伝)等が挙げられますが、それらの作品と同様に、現代におけるカリカチュアとして、社会に生きる市井の人間としての「つぶやき」を、紙を用い、切れ込みを入れてはめ込みで接合する技術を駆使し、造形で、キャプションを用い表現しています。

略歴

- 1961年 大阪生まれ。
- 1983~92年 行動展に油彩画を出展する。
- 1984年 大阪芸術大学美術学科(辻ゼミ)卒業
卒業制作展 辻ゼミ研究室賞受賞
全関西行動展 全関西行動美術賞受賞
段ボール、カレンダーの紙などで人物や擬人化した動物の立体作品等を制作し始める。
- 1994年11月 池田銀行蛍池支店にて展示
- 1995年 池田銀行苦楽園支店にて展示
- 1998年11月 アクティ大阪 16階ワールドプラザにて展示
- 2000年5月 ガラリースペース Tooにて個展
- 2001年10月 紀伊国屋本店西ウィンドウに展示
- 2003年6月 堂島アバンザ 1Fロビーに展示
- 同 7月 ガラリースペース Tooにて個展
- 2005年3月 阪急百貨店 6F 美術サロンにて展示
- 2005~9年 中之島界隈のアーティストたち展に出展
- 2008年12月 楓ギャラリーにてグループ展
- 2009年12月 楓ギャラリー「100 オブジェ」展に出品
- 2010年5月 堂島アバンザ ツルタ眼鏡店内にて個展
- 2010年11月 ガラリーパー母にて展示
- 2011年10月 アートストリーム大丸心斎橋店展示
- 2012年9月 門真市民会館ルミエールホール展示

今回の展覧会は「鶴田晴彦カリカチュア寄紙細工展」です。
 鶴田さんの作品は独自のストーリーを元に制作されていて、今回は第一話の「メグウ・ア・ネウル動く店」の続編である第二話「ネウルの大冒険」のお話です。
 「カリカチュア」とは、性格や特徴を際立たせるために誇張や歪曲を施すことであり、そのために登場人物達は、ひとりひとりが非常にユニークで個性豊かです。作品の中には、鶴田さんが日常で感じた社会の様々なことに対する「つぶやき」を風刺的に盛り込んだものもあり、思わず「くすっ」と楽しくなるような作品でした。
 紙を使って人物や擬人化された動物を制作されている鶴田さんの制作方法は独自で、紙と紙を繋げる際に接着剤を使用するのではなく、切れ込みを入れてはめ込みで接合されています。他にも、織り込んで形を作ったり、とても細かいところまで作り込まれていたり、立体造形力とこだわりを感じます。
 展示は、天井から吊るしたり、壁面から生えるようにしたり、はたまた下から天井へ伸びるようにするなどの工夫がたくさんあり、空間全体を使った自由で面白いものになりました。
 展覧会開催中はたくさんの方が来場され、鶴田さんの作り出すユニークな世界をゆっくりと楽しんでおられました。